



Web ユーザー インターフェイスを使用したスイッチの設定



(注) マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。

- [ディ 0 WebUI 設定の概要 \(1 ページ\)](#)
- [Cisco DNA Center クラウド導入準備ディ 0 ウィザード \(2 ページ\)](#)
- [クラシックディ 0 ウィザード \(5 ページ\)](#)

ディ 0 WebUI 設定の概要

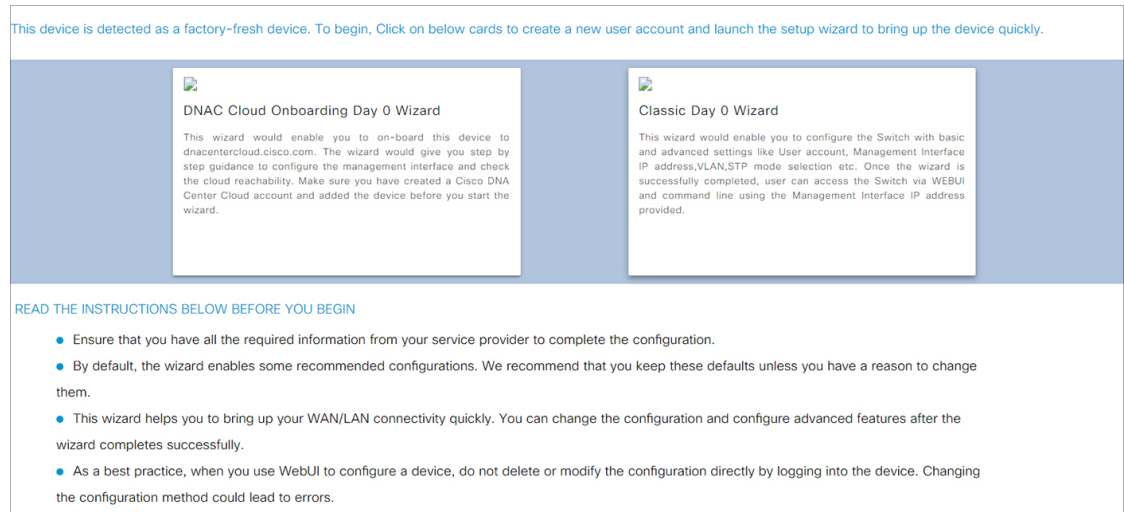
ハードウェアの取り付けが完了したら、トラフィックがネットワークを通過するのに必要な構成を使用してスイッチを設定する必要があります。新しいデバイスを使用する最初の日には、さまざまなタスクを実行することにより、デバイスがオンライン状態かつ到達可能で、簡単に設定されることを確認できます。

Web ユーザー インターフェイス (WebUI) は、組み込み GUI ベースのデバイス管理ツールです。デバイスをプロビジョニングしたり、デバイスの導入および管理性を簡素化したり、ユーザー エクスペリエンスを向上したりする機能を提供します。WebUI を使用すれば、CLI の専門知識がなくても、設定を構築し、デバイスのモニタリングとトラブルシューティングを行うことができます。

WebUI を使用してスイッチを設定するには、2 つの方法があります。

- [Cisco DNA Center クラウド導入準備ディ 0 ウィザード](#)
- [クラシックディ 0 ウィザード](#)

図 1: WebUI ディ 0 ウィザード



Cisco DNA Center クラウド導入準備ディ 0 ウィザード

このウィザードを使用して、管理インターフェイスを設定し、クラウド経由で到達可能かどうかを確認します。



(注) このウィザードに進む前に、Cisco DNA Center クラウドアカウントにデバイスを追加する必要があります。

アカウント設定の構成

デバイスで実行する最初のタスクは、ユーザー名とパスワードの設定です。通常、ネットワーク管理者はデバイスへのアクセスを制御し、権限がないユーザーがネットワーク設定を参照したり、設定を操作したりすることを防止します。

ステップ 1 デフォルトのユーザー名 **webui** とパスワード **cisco** を使用してログオンします。

ステップ 2 最大 25 文字の英数字のパスワードを設定します。

設定したユーザー名とパスワードの組み合わせにより、特権 15 のアクセス権が与えられます。ストリングを数字で始めることはできません。大文字と小文字を区別し、スペースを使用できますが、先行スペースは無視されます。

ステップ 3 [Device ID Settings] セクションで、[Device Name] フィールドにネットワーク内のデバイスを識別する一意の名前を入力します。

ステップ 4 [Time & Device Mode] フィールドに、デバイスの日付と時刻を手動で入力します。デバイスを Network Time Protocol (NTP) クロックソースなどの外部タイミングメカニズムと同期するには、[NTP Server] フィールドに IP アドレスを入力します。

図 2: Account Settings

The screenshot shows the 'Configuration Setup Wizard' interface. At the top, there are four main sections: ACCOUNT SETTINGS, BASIC SETTINGS, TEST CONNECTIVITY, and SUMMARY. The 'ACCOUNT SETTINGS' section is active and contains the following fields:

- Create New Account:**
 - Login Name*: testuser
 - Login User Password*:
 - Confirm Login User Password*: [empty]
- Device ID Settings:**
 - Device Name*: testdevice
 - NTP Server: x.x.x.x
 - Date & Time Mode: NTP Time (dropdown menu)

On the right side, there is a 'HELP AND TIPS' section with the following text:

Establish a new Username and Password for the Device. Please remember it for next Login.

Establish a new password for the privileged command level.

Device name is an identification that is given to the physical hardware device.

Network Time Protocol (NTP) is a networking protocol for clock synchronization between computer systems over packet-switched, variable-latency data networks. Enter the IP address of the NTP server.

If manual time is set then the difference in time will be adjusted at the time of configuring the device.

At the bottom of the wizard, there are navigation buttons: '< Welcome Page' and 'Basic Settings >'.

基本デバイスの設定

[Basic Settings] ページで、次の情報を設定します。

ステップ 1 [Device Management Settings] セクションで、静的アドレスまたは DHCP アドレスを使用して管理インターフェイスに IP アドレスを割り当てます。

ステップ 2 [Static] を選択した場合は、次の手順を実行します。

- [Associate VLAN Interface] ドロップダウンリストで、インターフェイスに関連付ける VLAN ID を入力します。
- 割り当てる IP アドレスが、入力したサブネットマスクの一部であることを確認してください。
- デフォルトゲートウェイの IP アドレスを入力します (オプション)。
- DNS サーバーのアドレスを入力します。

図 3: 基本設定 - 静的構成

The screenshot shows the 'Configuration Setup Wizard' interface. The progress bar indicates the current step is 'BASIC SETTINGS'. The 'Device Management Settings' section includes the following fields:

- IP Address: Radio buttons for 'Static' (selected) and 'DHCP'.
- VLAN ID*: Text input field containing '2'.
- IP Address*: Text input field containing 'x.x.x.x'.
- Subnet Mask*: Text input field containing 'x.x.x.x'.
- Default Gateway (optional): Text input field containing 'x.x.x.x (optional)'.
- Associate VLAN Interface: Dropdown menu showing 'GigabitEthernet1/0/2'.
- DNS Server: Text input field containing 'x.x.x.x'.

At the bottom, there are two buttons: '< Create New Account' and 'Test Connectivity >'. A 'HELP AND TIPS' sidebar on the right provides instructions for enabling Telnet, SSH, and VTP transparent mode.

ステップ 3 [DHCP] を選択した場合は、次の手順を実行します。

- a) [VLAN ID] フィールドに値を入力します。
VLAN ID は 1 以外の値にする必要があります。
- b) 割り当てる IP アドレスが、入力したサブネットマスクの一部であることを確認してください。
- c) デフォルトゲートウェイの IP アドレスを入力します (オプション)。
- d) DNS サーバーのアドレスを入力します。

図 4: 基本設定 - DHCP 構成

The screenshot shows the 'Configuration Setup Wizard' interface. The progress bar indicates the current step is 'BASIC SETTINGS'. The 'Device Management Settings' section includes the following fields:

- IP Address: Radio buttons for 'Static' and 'DHCP' (selected).
- VLAN ID*: Text input field containing '2'.
- IP Address*: Text input field containing 'x.x.x.x'.
- Subnet Mask*: Text input field containing 'x.x.x.x'.
- Default Gateway (optional): Text input field containing 'x.x.x.x (optional)'.
- DNS Server: Text input field containing 'x.x.x.x'.

At the bottom, there are two buttons: '< Create New Account' and 'Test Connectivity >'. A 'HELP AND TIPS' sidebar on the right provides instructions for enabling Telnet, SSH, and VTP transparent mode.

接続性のテストの設定

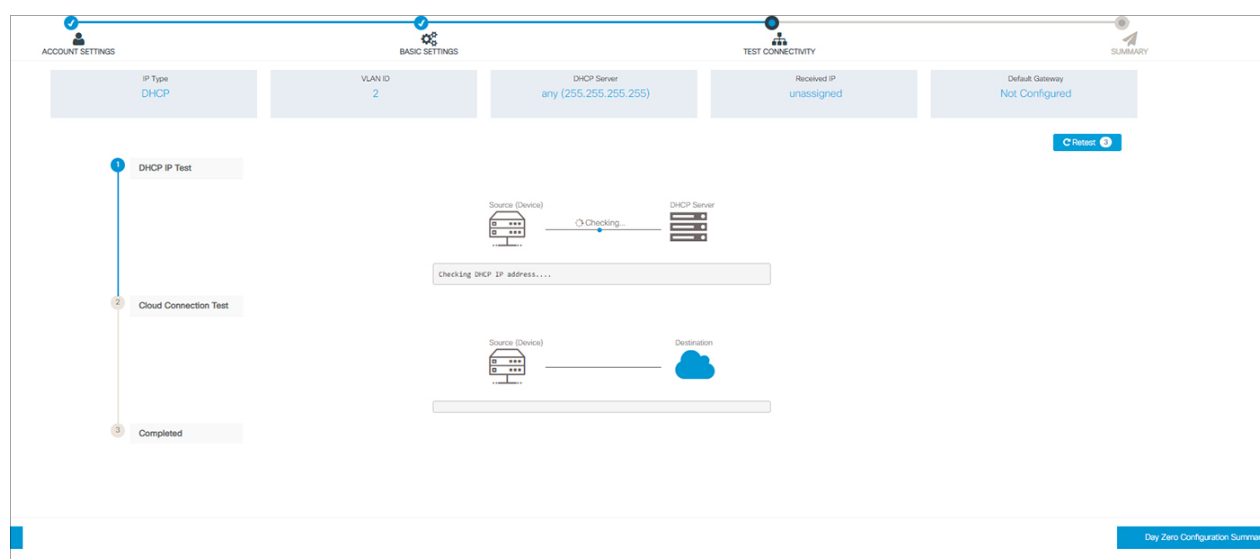
ステップ 1 デバイス間で Cisco DNAC クラウドへの接続が確立されていることを確認するには、[Test Connectivity/Retest] ボタンを使用します。

ステップ 2 接続が確立されていない場合は、[Retest] ボタンをクリックします。

それでも接続が失敗する場合は、前の [Basic Settings] ページに移動し、設定を変更して、[接続のテスト] を再度確認してください。

ステップ 3 接続が確立されたら、[Day Zero Configuration Summary] に移動して設定を保存します。

図 5: Test Connectivity



ステップ 4 設定が正常に適用され、デバイスが Cisco DNAC クラウドにリダイレクトされていることを確認します。

次のタスク

リダイレクションが成功しない場合は、デバイスが Cisco PnP 接続 (devicehelper) のリダイレクション コントローラ プロファイルに関連付けられていることを確認します。

クラシックディ 0 ウィザード

このウィザードを使用して、基本設定と詳細設定でデバイスを設定します。完了すると、管理インターフェイスの IP アドレスを使用して WebUI からデバイスにアクセスできます。

スイッチへの接続

始める前に

クライアントで DHCP クライアント識別子をセットアップして、スイッチから IP アドレスを取得し、Day 0 ログイン情報で認証できるようにします。

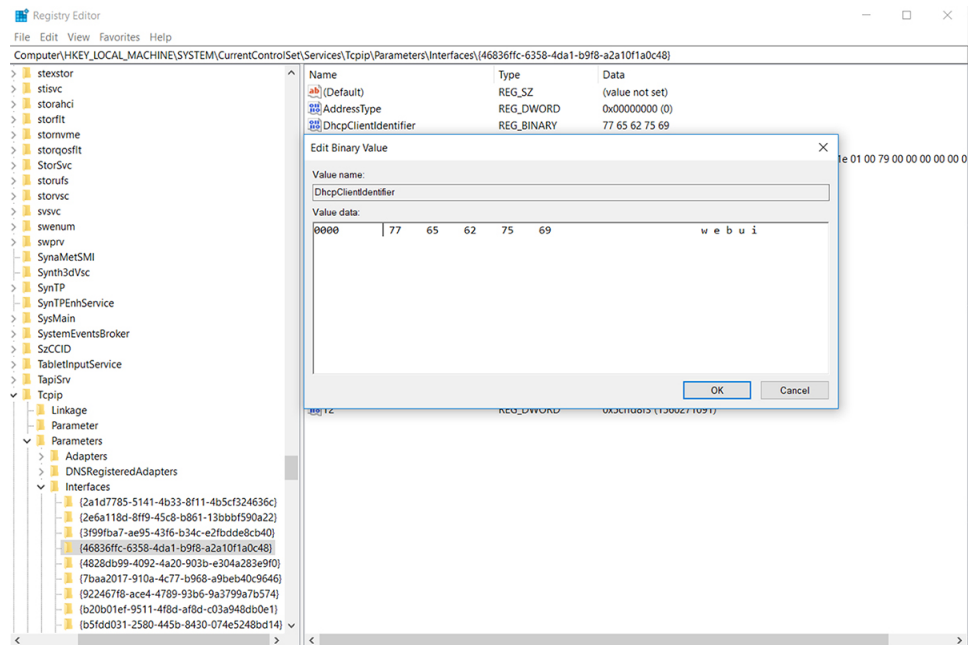
Windows クライアントでの DHCP クライアント識別子のセットアップ

1. タスクバーの Windows 検索ボックスに **regedit** と入力し、**Enter** キーを押します。
2. [User Account Control] のメッセージが表示されたら、[Yes] をクリックしてレジストリエディタを開きます。
3. 次の場所に移動します。

Computer\HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Tcpip\Parameters\Interfaces (イーサネットインターフェイスのグローバル固有識別子 (GUID) を見つけてください)

4. **webui** のデータ **77 65 62 75 69** を使用して新しい REG_BINARY の **DhcpClientIdentifier** を追加します。値は手動で入力する必要があります。

図 6: Windows での DHCP クライアント識別子のセットアップ

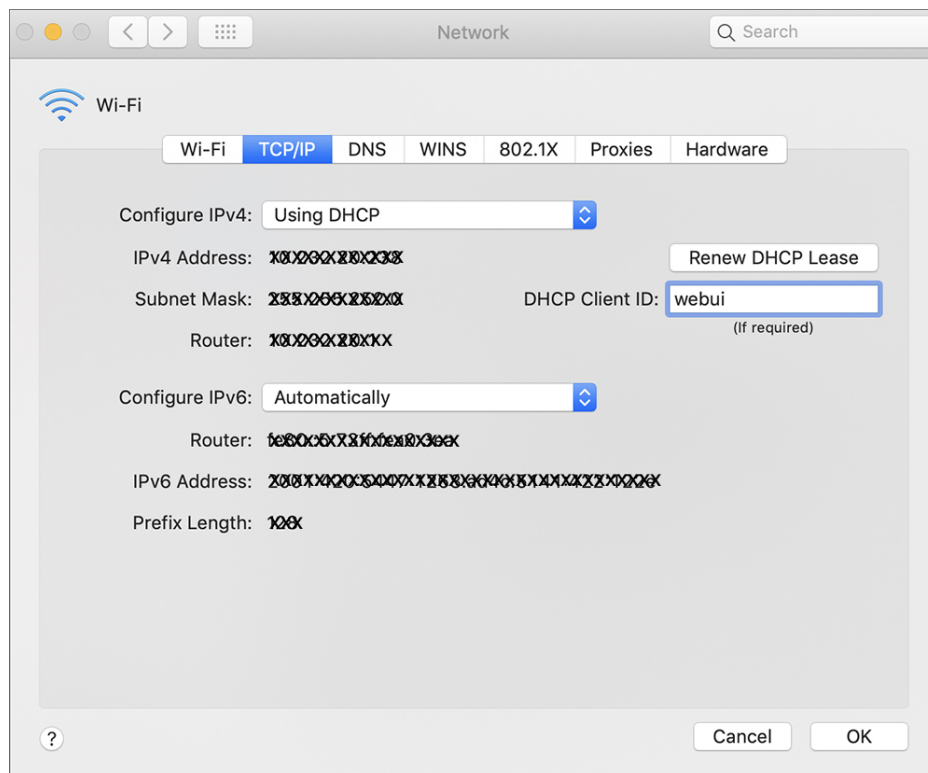


5. PC を再起動して設定を有効にします。

Mac クライアントでの DHCP クライアント識別子のセットアップ

1. [System Preferences] > [Network] > [Advanced] > [TCP] > DHCP Client ID] に移動し、**webui** と入力します。

図 7: Mac での DHCP クライアント識別子のセットアップ

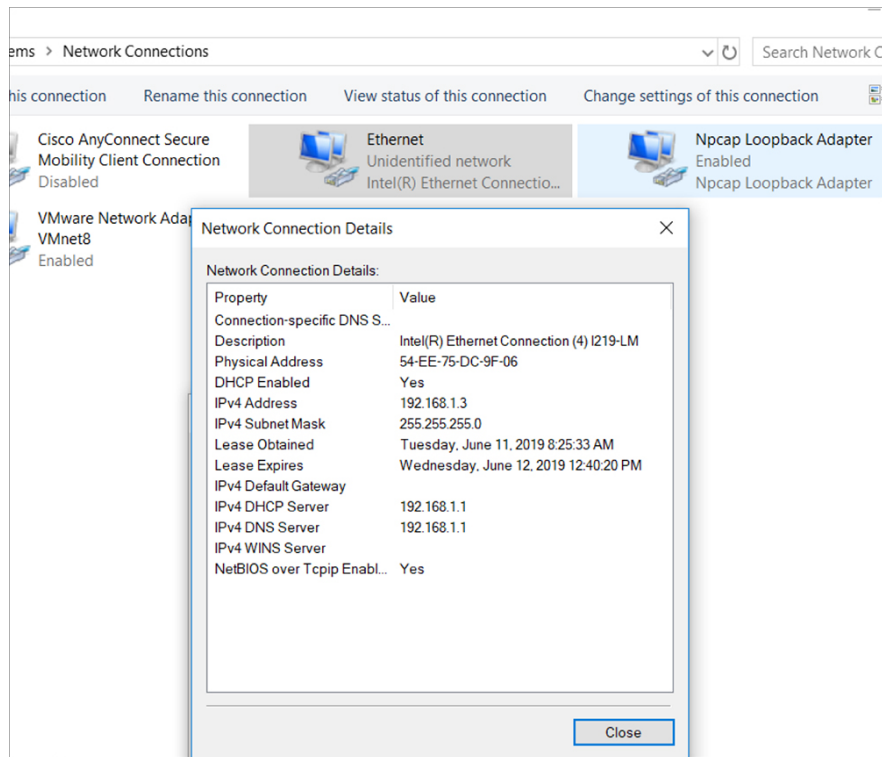


2. [OK] をクリックして変更を保存します。

ブートアップスクリプトにより構成ウィザードが実行され、次の基本設定の入力を求められます (**Would you like to enter the initial configuration dialog? [yes/no]:**)。Web UI を使用して Day 0 設定を行うには、応答を入力しないでください。代わりに次のタスクを実行します。

-
- ステップ 1 スイッチに何らかのデバイスが接続されていないことを確認します
 - ステップ 2 イーサネットケーブルの一方の端をアクティブなスーパーバイザのダウンリンク（非管理）ポートの 1 つに接続し、もう一方の端をホスト（PC/Mac）に接続します。
 - ステップ 3 PC/Mac を DHCP クライアントとして設定し、スイッチの IP アドレスを自動的に取得します。192.168.1.x/24 の範囲内の IP アドレスを取得する必要があります。

図 8: IP アドレスの取得



最大で3分かかります。デバイスの端子を使用する前に、Web UI から Day 0 セットアップを完了させる必要があります。

ステップ 4 PC 上で Web ブラウザを起動し、デバイスの IP アドレス (<https://192.168.1.1>) をアドレスバーに入力します。

ステップ 5 Day 0 の [username] に **webui** と入力し、[password] に **cisco** を入力します。

次のタスク

ユーザー アカウントを作成します。

ユーザー アカウントの作成

デバイスで実行する最初のタスクは、ユーザー名とパスワードの設定です。通常、ネットワーク管理者はデバイスへのアクセスを制御し、権限がないユーザーがネットワーク設定を参照したり、設定を操作したりすることを防止します。

ステップ 1 デバイスに付属のデフォルト ユーザー名とパスワードを使用してログオンします。

- ステップ 2** 最大25文字の英数字のパスワードを設定します。設定したユーザー名とパスワードの組み合わせにより、特権15のアクセス権が与えられます。ストリングを数字で始めることはできません。大文字と小文字を区別し、スペースを使用できますが、先行スペースは無視されます。

図 9: アカウントの作成

The screenshot displays the Cisco Configuration Setup Wizard interface. At the top, the Cisco logo and the title 'Configuration Setup Wizard' are visible. Below this is a progress bar with six steps: 'CREATE ACCOUNT', 'BASIC SETTINGS', 'SITE PROFILE', 'SWITCH WIDE SETTINGS', 'PORT SETTINGS', and 'SUMMARY'. The 'CREATE ACCOUNT' step is currently selected and highlighted. The main content area is divided into two columns. The left column contains the 'Create New Account' section with three input fields: 'Login Name', 'Password', and 'Confirm password'. The right column is titled 'Hardware and Software details of the device.' and contains five sections: 'Platform Type', 'IOS Installed', 'Serial Number', 'Modules', and 'License Installed', each with a corresponding icon and a dashed line indicating a field. At the bottom of the page, there is a 'Create New Account' button centered and a 'Basic Device Settings >' button on the right.

セットアップオプションの選択

サイト プロファイルに基づいてデバイスを設定するには [Wired Network] を選択して、スイッチ全体の設定を続行します。それ以外の場合は、次の手順に進み、デバイスの基本設定のみを行います。

基本デバイスの設定

[Basic Device Settings] ページで、次の情報を設定します。

- ステップ 1** [Device ID and Location Settings] セクションで、ネットワーク内のデバイスを識別する一意の名前を入力します。
- ステップ 2** デバイスの日付と時刻の設定を選択します。デバイスを NTP クロック ソースなどの有効な外部タイミングメカニズムと同期させるには、[Automatic] を選択するか、[Manual] を選択して自分で設定します。

図 10 : [Basic Device Settings] > [Device ID and Location Settings]

ステップ 3 [Device Management Settings] セクションで、管理インターフェイスに IP アドレスを割り当てます。割り当てる IP アドレスが、入力したサブネットマスクの一部であることを確認してください。

ステップ 4 デフォルト ゲートウェイの IP アドレスを入力します (オプション)。

ステップ 5 Telnet によるデバイスへのアクセスを有効にするには、[Telnet] のチェック ボックスをオンにします。

ステップ 6 セキュア シェル (SSH) によるデバイスへのセキュアなリモート アクセスを有効にするには、[SSH] のチェック ボックスをオンにします。

ステップ 7 [VTP transparent mode] のチェック ボックスをオンにし、デバイスによる VTP への参加を無効化します。

前の手順で [Wired Network] を選択していない場合、次の画面に進み、[Day 0 Config Summary] 画面の設定を確認し、[Finish] をクリックします。サイトプロファイルに基づいてデバイスを自動的に設定するには、[Setup Options] をクリックして [Wired Network] を選択します。

図 11 : [Basic Device Settings] > [Device Management Settings]

サイト プロファイルに基づいたデバイスの設定

より簡単に設定作業を行い時間を節約するには、ネットワークでデバイスが設置および管理される場所に基づいて、サイトプロファイルを選択します。選択したサイトプロファイルに基づき、シスコのベストプラクティスに従ってデバイスが自動的に設定されます。該当する詳細設定画面から、このデフォルト設定を簡単に変更できます。

クイック セットアップの一環としてサイト プロファイルを選択すると、企業のビジネス ニーズに基づいてデバイスを設定できます。たとえば、デバイスをアクセススイッチとして使用して、ネットワーク上のクライアントノードとエンドポイントを接続したり、ディストリビューションスイッチとして使用して、サブネットと VLAN の間でパケットをルーティングしたりすることができます。

表 1: 各サイトプロファイル（ディストリビューションスイッチ）と共に読み込まれるデフォルト設定

設定	シングル ディストリビューションスイッチ (シングルダウンリンク)	シングル ディストリビューションスイッチ (シングルポート チャンネルダウンリンク)	冗長ディストリビューションスイッチ (ポートチャンネルピアおよび ダウンリンク)
ホスト名	クイックセットアップの一部として指定したホスト名またはデバイス名	クイックセットアップの一部として指定したホスト名またはデバイス名	クイックセットアップの一部として指定したホスト名またはデバイス名
スパニング ツリーモード	RPVST+	RPVST+	RPVST+
VTP	モードトランスペアレント	モードトランスペアレント	モードトランスペアレント
UDLD	イネーブル	イネーブル	イネーブル
エラーディセーブル回復	リカバリモードを自動的に設定	リカバリモードを自動的に設定	リカバリモードを自動的に設定
ポートチャンネルロードバランス	送信元/宛先 IP	送信元/宛先 IP	送信元/宛先 IP
SSH	バージョン 2	バージョン 2	バージョン 2
SCP	イネーブル	イネーブル	イネーブル
スイッチへの VTY アクセス	イネーブル	イネーブル	イネーブル
サービスタイムスタンプ	イネーブル	イネーブル	イネーブル

設定	シングル ディストリビューションスイッチ (シングルダウンリンク)	シングル ディストリビューションスイッチ (シングルポートチャネルダウンリンク)	冗長ディストリビューションスイッチ (ポートチャネルピアおよびダウンリンク)
VLAN	次の VLAN が作成されます。 <ul style="list-style-type: none"> • Default VLAN • データ VLAN • 音声 VLAN • Management VLAN 	次の VLAN が作成されます。 <ul style="list-style-type: none"> • Default VLAN • データ VLAN • 音声 VLAN • Management VLAN 	次の VLAN が作成されます。 <ul style="list-style-type: none"> • Default VLAN • データ VLAN • 音声 VLAN • Management VLAN
管理インターフェイス	クイックセットアップに基づいて管理ポートに設定されたレイヤ 3 設定	クイックセットアップに基づいて管理ポートに設定されたレイヤ 3 設定	クイックセットアップに基づいて管理ポートに設定されたレイヤ 3 設定
QoS ポリシー	定義されたディストリビューション用 QoS ポリシー	定義されたディストリビューション用 QoS ポリシー	定義されたディストリビューション用 QoS ポリシー
アップリンクインターフェイス	選択したアップリンクポートは、他のディストリビューションスイッチまたはコアスイッチに接続	選択したアップリンクポートは、他のディストリビューションスイッチまたはコアスイッチに接続	選択したアップリンクポートは、他のディストリビューションスイッチまたはコアスイッチに接続
ダウンリンクインターフェイス	トランクモードで設定されたアクセススイッチへのダウンリンク接続	トランクモードで設定されたアクセススイッチへのダウンリンク接続	トランクモードで設定されたアクセススイッチへのダウンリンク接続
Port-channel	Port-channel からコアまで作成済み	Port-channel からコアまたはアクセスまで作成済み	作成済みのコアまたはディストリビューションへの Port-channel

図 12: [Site Profile] > [Distribution Switches]

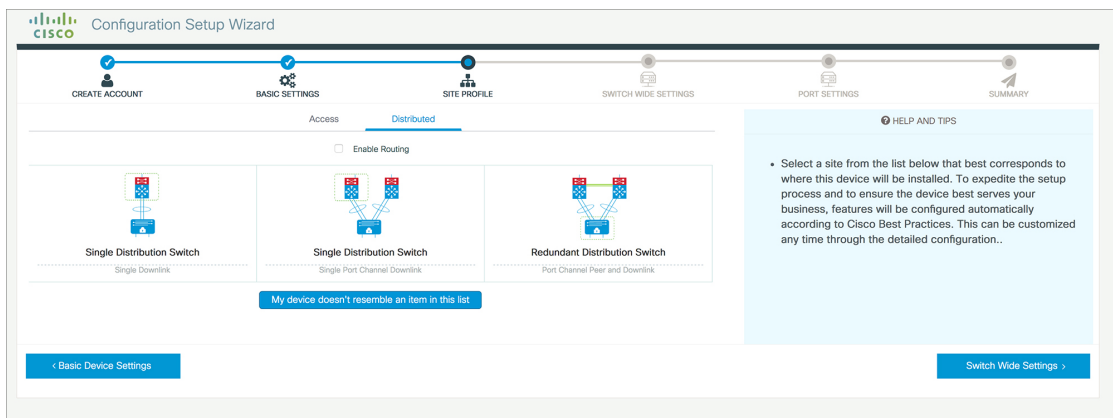


図 13: [Site Profile] > [Distribution Switches] (ルーテッドアクセスの場合)

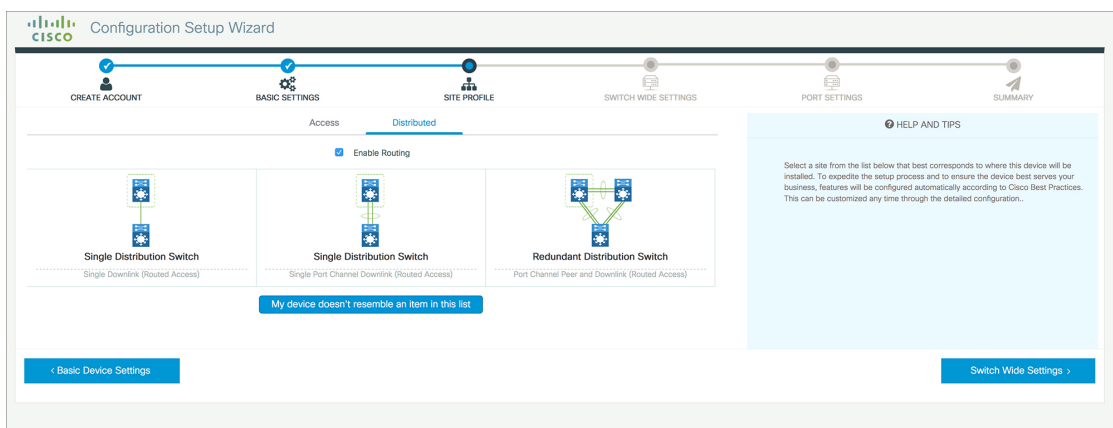
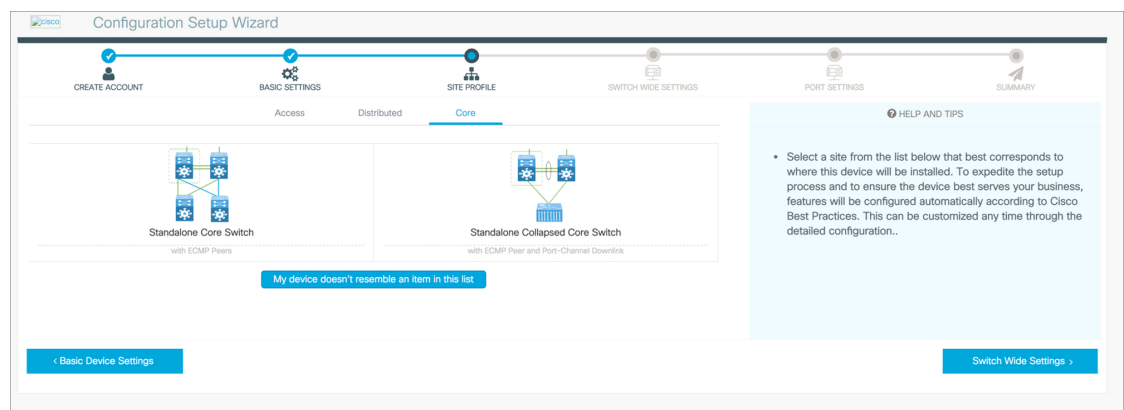


表 2: 各サイト プロファイル (コアスイッチ) と共に読み込まれるデフォルト設定

設定	スタンドアロンコアスイッチ (ECMP ピア)	スタンドアロンコラスプト コアスイッチ (ECMP ピアとポ ートチャネルダウンリンク)
ホスト名	クイック セットアップの一部 として指定したホスト名また はデバイス名	クイック セットアップの一部 として指定したホスト名また はデバイス名
UDLD	イネーブル	イネーブル
エラー ディセーブル回復	リカバリ モードを自動に設定	リカバリ モードを自動に設定
ポートチャネルロードバラン ス	送信元/宛先 IP	送信元/宛先 IP
SSH	バージョン 2	バージョン 2

設定	スタンドアロンコアスイッチ (ECMP ピア)	スタンドアロンコアスプロト コアスイッチ (ECMP ピアとポ ートチャンネル ダウンリンク)
SCP	イネーブル	イネーブル
スイッチへの VTY アクセス	イネーブル	イネーブル
Mitigate Address Spoofing	Strict モードにおけるユニキャスト RPF (uRPF)	Strict モードにおけるユニキャスト RPF (uRPF)
サービス タイムスタンプ	イネーブル	イネーブル
管理インターフェイス	クイック セットアップに基づいて管理ポートに設定されたレイヤ 3 設定	クイック セットアップに基づいて管理ポートに設定されたレイヤ 3 設定
QoS ポリシー	定義されたディストリビューション/コア用 QoS ポリシー	定義されたディストリビューション/コア用 QoS ポリシー
アップリンク インターフェイス	選択されたアップリンクポートは MAN/WAN デバイスに接続	選択されたアップリンクポートは MAN/WAN デバイスに接続
ダウンリンク インターフェイス	アクセス スイッチへのダウンリンク接続	ディストリビューション スイッチへのダウンリンク接続
クロスコネク ト インターフェイス	選択されたポートは他のコアスイッチに接続	選択されたポートは他のコアスイッチに接続

図 14: [Site Profile] > [Core Switches]



VLAN の設定

- ステップ 1** [VLAN Configuration] セクションでは、データ VLAN と音声 VLAN の両方を設定できます。データ VLAN の名前を入力します。
- ステップ 2** データ VLAN を設定するには、[Data VLAN] チェック ボックスがオンになっていることを確認し、VLAN の名前を入力して、VLAN ID を割り当てます。複数の VLAN を作成する場合は、VLAN の範囲のみを指定します。
- ステップ 3** 音声 VLAN を設定するには、[Voice VLAN] チェック ボックスがオンになっていることを確認し、VLAN の名前を入力して、VLAN ID を割り当てます。複数の VLAN を作成する場合は、VLAN 範囲を指定します。

STP の設定

- ステップ 1** RPVST はデバイスでデフォルトの STP モードです。[STP Mode] ドロップ ダウン リストでこれを PVST に変更できます。
- ステップ 2** ブリッジプライオリティ番号をデフォルト値 32768 から変更するには、[Bridge Priority] を [Yes] に変更し、ドロップ ダウン リストからプライオリティ番号を選択します。

図 15: VLAN と STP の設定

The screenshot shows the Cisco Configuration Setup Wizard interface. At the top, there is a progress bar with six steps: CREATE ACCOUNT, BASIC SETTINGS, SITE PROFILE, SWITCH WIDE SETTINGS, PORT SETTINGS, and SUMMARY. The current step is SWITCH WIDE SETTINGS. Below the progress bar, there are three main sections: VLAN Configuration, STP Configuration, and General Configuration. In the VLAN Configuration section, there are three checkboxes: Data VLAN, Voice VLAN, and Management VLSwitch Wide Settings. In the STP Configuration section, there is a dropdown menu for STP Mode set to RPVST, a checked checkbox for Bridge Priority, and a dropdown menu for Bridge Priority Number set to 32768. In the General Configuration section, there are two buttons: < Site Profile and Port Settings >. On the right side of the wizard, there is a HELP AND TIPS section with a blue background. It contains a bullet point: "A data VLAN is a VLAN that is configured to carry user-generated traffic. Voice VLAN allows you to enhance VoIP service by configuring ports to carry IPvoice traffic from IP phones on a specific VLAN." Below this, there is a paragraph: "STP is to prevent bridge loops and the broadcast radiation that results from them. The part of a network address which identifies it as belonging to a particular domain. Configure Syslog Client within the Cisco Device, use a severity level of warnings through emergencies to generate error message about software and hardware malfunctions. Protocol for network management and its collecting information from, and configuring, network devices, such as switches, and routers on an IP network."

DHCP、NTP、DNS、SNMP の設定

- ステップ 1** [Domain Details] セクションに、非修飾ホスト名を完成させるためにソフトウェアで使用されるドメイン名を入力します。
- ステップ 2** DNS サーバーを識別する IP アドレスを入力してください。このサーバーは、デバイスでの名前とアドレスの解決に使用されます。
- ステップ 3** [Server Details] セクションに、DHCP クライアントで使用可能にする DNS サーバーの IP アドレスを入力します。
- ステップ 4** [Syslog Server] フィールドに、syslog メッセージの送信先となるサーバーの IP アドレスを入力します。
- ステップ 5** 正しい時刻、日付、およびタイムゾーンでデバイスが設定されるようにするには、デバイスの時間の同期相手となる NTP サーバーの IP アドレスを入力します。
- ステップ 6** [Management Details] セクションに、SNMP サーバーを識別する IP アドレスを入力します。デバイスでは SNMPv1、SNMPv2、および SNMPv3 がサポートされています。
- ステップ 7** SNMP プロトコルへのアクセスを許可する [SNMP community] 文字列を指定します。

図 16: DHCP、NTP、DNS、SNMP の設定

The screenshot shows the Cisco Configuration Setup Wizard interface. At the top, there's a progress bar with steps: CREATE ACCOUNT, BASIC SETTINGS (current), SITE PROFILE, SWITCH WIDE SETTINGS, PORT SETTINGS, and SUMMARY. Below the progress bar, the 'General Configuration' section is active. It contains three sub-sections: 'Domain Details' with 'Domain Name' and 'DNS Server' input fields; 'Server Details' with 'DHCP Server', 'Syslog Server', and 'NTP Server' input fields; and 'Management Details' which is partially obscured. To the right, a 'HELP AND TIPS' panel provides explanatory text and a bullet point: 'Protocol for network management and its collecting information from, and configuring, network devices, such as switches, and routers on an IP network.' At the bottom, there are navigation buttons: '< Site Profile' and 'Port Settings >'.

次のタスク

ポートを設定します。

ポート設定

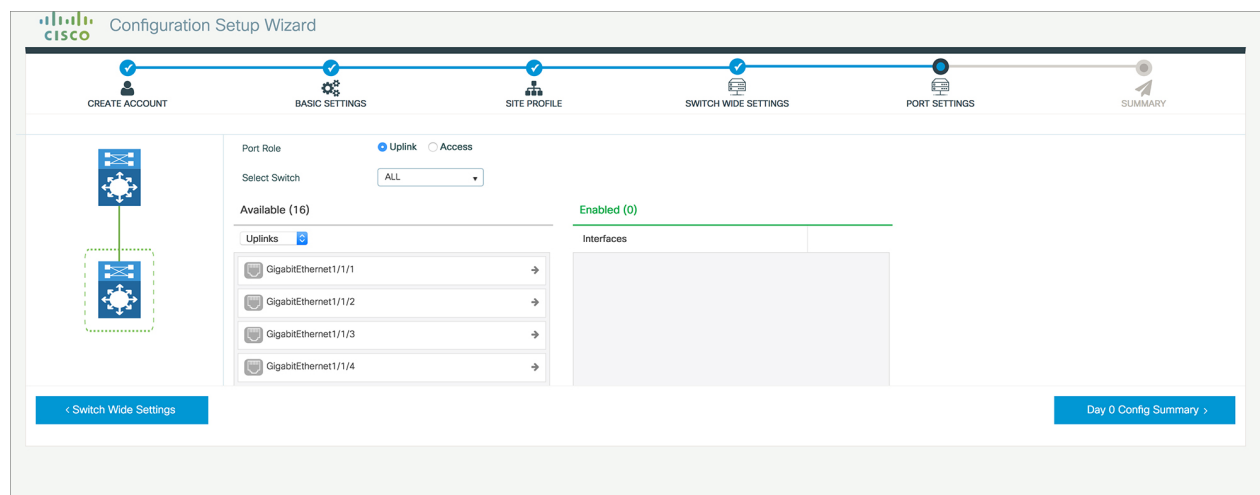
- ステップ 1** 前の手順で選択したサイトプロファイル（画面左側に表示）に基づいて、以下のオプションの中から [Port Role] を選択します。
- [Uplink]：ネットワークのコア方向にあるデバイスに接続します。

- [Downlink] : ネットワーク トポロジ内で下流にあるデバイスに接続します。
- [Access] : VLAN 未対応のゲスト デバイスに接続します。

ステップ 2 [Select Switch] ドロップダウン リストからオプションを選択します。

ステップ 3 有効化する方法に応じて [Available] インターフェイス リストから選択し、[Enabled] リストを開きます。

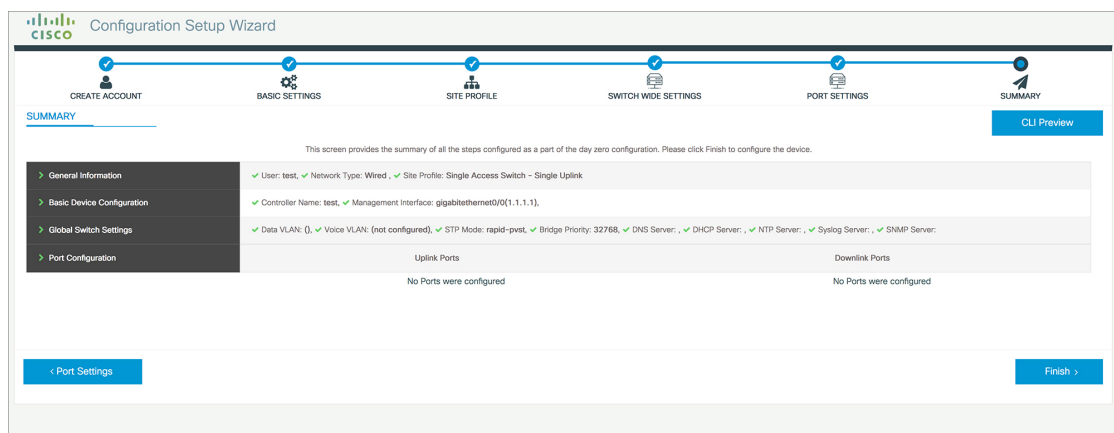
図 17: ポート設定



次のタスク

- [Day 0 Config Summary] をクリックして設定を確認します。
- [Finish] をクリックします。

図 18: Day 0 Config Summary



VTY 回線の設定

Telnet または SSH を経由してデバイスに接続する場合は、仮想端末回線または仮想テラタイプ (VTY) が使用されます。VTY 回線の数は、リモートによるデバイスへの同時アクセス数の最大値に一致します。デバイスに十分な数の VTY 回線が設定されていない場合、ユーザーが WebUI に接続する際に問題が発生することがあります。VTY 回線のデフォルト値は 0 ~ 15 です。デバイスでは、最大 99 の同時セッションが可能です。

ステップ 1 WebUI から [Administration] > [Device] に移動し、[General] ページを選択します。

ステップ 2 [VTY Line] フィールドに、設定する VTY 回線の数に応じて 0 ~ **xx** を入力します。

図 19: VTY 回線の設定

The screenshot displays the configuration interface for a device. The breadcrumb navigation shows 'Administration > Device'. The 'General' tab is active. On the left sidebar, 'Administration' is highlighted. The main content area shows various configuration options:

- IP Routing:** A toggle switch set to 'DISABLED'.
- Host Name*:** Text input field containing 'SW-9200'.
- Banner:** A large empty text area.
- Management Interface:** Text input field containing 'GigabitEthernet0/0'.
- IP Address*:** Empty text input field.
- Subnet Mask*:** Empty text input field.
- System MTU(Bytes):** Text input field containing '1500'.
- VTY Line:** Text input field containing '0-30'. To its right is a link labeled 'View VTY options'.
- VTY Transport Mode:** A dropdown menu with 'Select a value' selected.